

# 図書だより NO. 8

令和2年1月30日

緑ヶ丘中学校図書館

えと じゅうにし  
千支と十二支



今年は<sup>ね</sup>子年。<sup>ね</sup>子、<sup>うし</sup>丑、<sup>とら</sup>寅…と続く<sup>じゅうにし</sup>十二支1番最初の<sup>ね</sup>ねずみ年です。皆さんは、<sup>えと</sup>千支や<sup>じゅうにし</sup>十二支の由来を知っていますか？

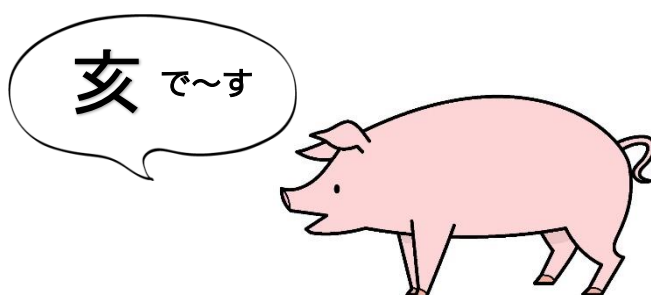
千支は、正しくは『<sup>じっかんじゅうにし</sup>十干十二支』と呼ばれる<sup>こよみ</sup>暦のことで、中国で生まれ、日本には6世紀頃に伝わったとされています。『十干』という10種類の言葉（甲、乙、丙、丁など）と『十二支』という12種類の言葉（子、丑、寅、卯など）の組み合わせで60通りがあり、暦のほかに方位や時間を表したり、占いに用いられたりもしていました。千支と十二支は、同じ意味に思われがちですが、千支は、十干と十二支の両方を含む言葉なので、正確には別の意味になります。

現在の日本でおなじみなのは、12種類の動物で表す十二支ではないでしょうか。年賀状を書くときに、「今年<sup>うま</sup>はうさぎ年」などの表現をします。また、「午前」「午後」の「午」は、お昼時を表す十二支の<sup>うま</sup>「午」のことで、普段使われる言葉の中にも十二支に由来するものがあります。

十二支になぜ動物が使われるようになったのかは諸説あり、正確なことはわかりませんが、一説によると、十二支を身近な動物にたとえて人びとに覚えてもらったと言われています。動物の種類や順番についても、なぜそのように決まったかはわかりませんが、それについてはある言い伝えがあります。

図書館にある『十二支のはじまり』（岩崎京子著、教育画劇）という本には、ある年の暮れに、神様が動物たちにおふれを出したとあります。おふれの内容は、「正月の朝に神様の御殿に来た者の中で、早い者から12番目までを順番に1年ずつその年の大将とする」というもの。おふれを聞いた動物たちは、さっそく1番をねらって御殿に向かいます。足の遅い動物や体の小さい動物もいるので、動物たちはいろいろと策をねって御殿を目指すのですが……。果たして結果はどうなったのでしょうか。この続きは、ぜひ図書館で調べてみてくださいね。

ちなみに、『<sup>い</sup>亥』は、日本ではイノシシを意味しますが、中国ではブタを意味します。



# 今年度最後の新着案内



2月3日(月)から、新しい図書の貸出を始めます。今年度の新着図書の入れ替えは、今回が最後となります。図書の貸出は 2月末で終了 しますので、読みたい本がある人は、ぜひ予約をしてください。

